

Injury Alert (傷害速報)類似事例

水筒による腓外傷 (No.59 水筒による腓外傷の類似事例1)

事例	基本情報	年齢：6歳 10か月 性別：女児 体重：17kg 身長：110cm
	家族構成	父、母、本人、弟
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		外傷性腓損傷
医療費		入院 911,750円
原因対象	対象名称	水筒
	入手経路 使用状況	購入時期・経路不明
発生状況	発生場所	登校中の路上
	周囲の人 周囲の環境	周囲に成人はいなかった。
	発生日月日	2020年11月X日(木) 午前7時00分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	水筒を肩からたすき掛けに下げて集団登校の集合場所へ一人で向かう途中、走っていてつまずいて転倒した。その際に地面とお腹の間に水筒が横向きに挟まり腹部を打撲した。倒れている本児を友人が発見し、学校の教師を呼び、教師に連れられ帰宅した。自宅には母がおり、帰宅後一旦腹部症状は治まったため登校したが、学校へ到着直後に嘔吐あり、近医A受診した。近医Aで超音波検査と尿検査を行われたが異状認めず帰宅したが、帰宅後も嘔吐持続したため近医Aを再診し、前医Bへ紹介受診となった。前医Bで腹部CTが行われ、腓損傷(日本外傷学会臓器分類グレードⅢa)を認めたため医療機関Cへ搬送された(図1)

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>前医 B 受診から医療機関 C 受診までの間、児に頻脈を認めていたが、その他呼吸循環は保たれていた。頻脈は疼痛によるものと判断し、鎮痛を行い入院の上保存的加療とした。入院時は、打撲痕はなく、臍周囲に自発痛と圧痛を認めていた。入院後症状に悪化のないことを確認しながら、血液検査により膵酵素、超音波検査により腹水の評価を継続し、第 5 病日より飲水開始、第 6 病日より食事開始し、食事形態を徐々に上げていき、第 14 病日に退院とした。</p>
<p>キーワード</p>	<p>(委員会で記載致します)</p>

【図 1】 外傷性膵損傷の CT 画像（白矢印）

